



# JSQC ニュース

CONTENTS

- 1-トピックス アンケートの集計結果
- 2-私の提言 長期的な視野で引き続き着実な活動を
- 2-ルポルタージュ 石川馨先生生誕100年記念第125回講演会ルポ
- 3-第45年度事業計画 / 第126回講演会ルポ
- 4-研究助成募集のお知らせ / 7月の入会者紹介 / 行事案内 / ANQ Congress 2016 Vladivostok

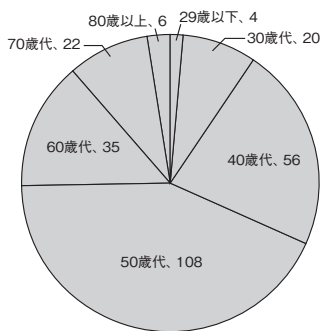
発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## アンケートの集計結果

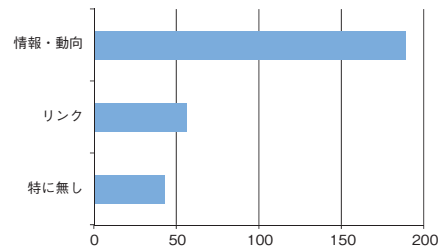
第44年度 広報委員会 委員長 兼子 毅

### 回答者のプロフィール

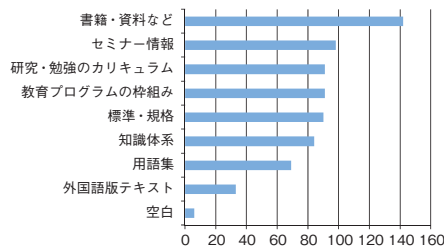
回答総数は251名でした。40歳代、50歳代で65%を占め、いわゆる若手の比率が1割に満たないのが大変気になります。



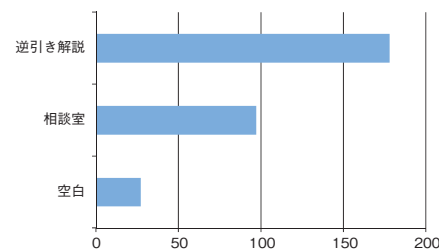
研究者やエキスパートに関する情報については「情報、動向、専門分野」に期待する回答が半数を超えました。今後、個人会員の力量評価などと合わせて充実していく必要があります。



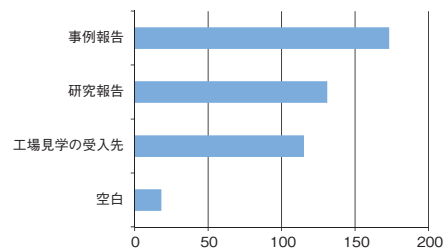
学習や教育に関する情報については、すぐに利用可能な情報に関するニーズが高いことがわかりました。すでに品質管理の専門能力習得に活用できる書籍・セミナーなどの整理をホームページ上で公開していますが、品質保証ガイドブックや品質管理検定、JSQC規格などと有機的に結びつけていく必要があります。



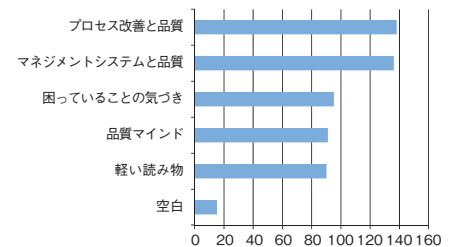
困った時には、誰かに相談するよりも、まず自分で調べてみるという人が多いようです。こういう時にはどうすれば良い、という「逆引き」ができる解説が望まれています。



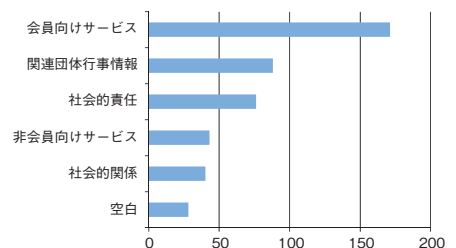
他社の動向については、事例、研究、見学いずれも高いニーズがあります。学会という場を使って、産産交流をより活発にしていくことが望まれています。



品質や品質管理を考え直したい時の読み物として、半数以上の方がプロセス改善やマネジメントシステムと品質の関わりを期待しています。気づきに繋がる読み物に関しても高いニーズがあることがわかりました。



品質管理関連団体の情報としては、やはり本学会の各種情報が望まれています。電子図書館からの論文ダウンロードなど、学会会員向けのサービスは多数ありますが、まだまだ知らない会員も多いようです。



最後の自由記述では、おおよそ4人に一人の回答者がかなり長文のご意見をお寄せいただきました。ここで一つ一つをご紹介できませんが、理事会にて共有し、今後の活動に役立てていきたいと思っています。

すでに学会Webページで提供されている情報もわかりにくい、探しにくいというご指摘をいただきました。順次リニューアルを進めるとともに、関連委員会などとも調整し、会員にとって有用な情報提供を図るべく充実していきます。回答をお寄せいただいた皆さん、お忙しいところご協力いただきありがとうございます。

## ● 私 の 提 言 ●

## 長期的な視野で引き続き着実な活動を

横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授 小川 慎一



わたしは、文系の学問分野である社会学の観点から、日本の品質管理活動の研究をしてきました。社会学は

その名のとおり、社会現象の変化や不変を把握し、それらの要因や影響を分析することを目的とする学問です。品質管理活動が日本でどう受容されたのか、なぜ小集団改善活動が日本で誕生し普及したのか、その後の小集団改善活動がどう変化したのか、具体的な研究対象です。

早くも1930年代に日本で知る者がい

た統計的品質管理は、ごく少数の人々によって研究される戦時期を経て、戦後の49年になってようやく、企業人を対象とする本格的な講習会が開設されました。ここまでで20年近くかかっています。デミング賞の創設（50年）や全社的品質管理の概念の登場（50年代後半）を経て、QCサークル本部が開設されるのが62年です。専門家対象の品質管理教育から、現場の従業員も参加する小集団改善活動が登場するまでに、13年が経過しています。本学会の設立（71年）を経て、有名なテレビ番組「If Japan Can...Why Can't We?」がアメリカのNBCで放送されたのが80年ですので、本格的に普及啓発が開

始されて31年で、日本の品質管理が海外で認識されたこととなります。

ところが、79年から急激に増加した日本のQCサークルの新規登録数は、84年度を最大値として89年度以降は減少傾向に転じました。日本の品質管理は高評価を受けてから10年足らずで低調期に入ったようにも見えますし、あるいは80年代は国内外を問わず、単に「日本的」品質管理のブームだったともいえそうです。

90年代や2000年代以降の企業経営をとりまく困難な状況下でも、この四半世紀のあいだ、産業構造の変化や情報技術革新の進展に応じて、小集団改善活動の普及啓発にたゆみない努力と工夫が続けられてきたことを、『QCサークル』誌の記事や関係者の方々から教わりました。少子高齢化にともなう産業構造や消費者行動、就業構造の変化を長期的に見据えつつ、今後も引き続き、着実な品質管理活動が日本で展開されることを期待します。

第125回  
講演会  
ルポ石川馨先生 生誕100年記念  
『これからのTQMと品質保証』

狩野紀昭先生による標記講演会が、2015年10月7日(水)午後、積水化学工業(株)京都研究所講堂にて開催された。

石川馨先生の研究室で実際に体験された逸話を具体的にご紹介いただくことで石川馨先生の偉大な功績やQCサークルに対する思いを知ることができ、またこれからの品質保証・品質について多くの気づきが得られる大変示唆にとんだ講演でした。参加者は、111名。

## 〔これからの品質保証〕

品質管理のPDCAの中で最も重要なものは？ 応急対策と再発防止ではどちらが重要か？ などの基本的な質問を参加者にされ、品質教育を受けすぎると一般的な常識で判断することができなくなることを参加者に示された。そして、品質をプロセスで作りこむ「∞の字」モデルについて紹介された。また作業標準(SOP)

を作り作業される方に説明するだけでなく、監督者が遵守確認のための現場巡回に時間をとり、日常活動と中長期活動をバランスよくみることが現場の第一線監督者の理想の姿であり、品質を保証する上で大切であると強調された。

## 〔これからの品質〕

第1レベルの「顧客の基本的要求への適合」Quality control (1950-60年代)、第2レベルの「明示された顧客要求の満足」CS達成のQuality management (1970-80年代～)を経て、これからは第3レベルの「顧客の潜在要求を探求し顧客の期待を超えた歓喜を実現」(CD達成)のQuality creation (質創造)が必要となっている。

また、今日多くの製品は買替購入であり、過去品質(Q1)、現在品質(Q2)、未来品質(Q3)の3つの品質を考慮することが大切であること及び企業の競争力は、営業力と製品力で決定されるため、従来のコスト低減に加えて、売り上げ向上のための品質の実践(Quality for sales)が重要であることを参加者に提言された。

最後は、参加者全員による盛大な拍手をもって閉会となった。 綿民 誠 (株)ジェイテクト

# 一般社団法人 日本品質管理学会 第45年度事業計画

| 行事 / 月    | H27<br>10月                            | 11月   | 12月                       | H28<br>1月 | 2月                                   | 3月             | 4月                         | 5月                 | 6月          | 7月                         | 8月    | 9月                          | 10月 | 11月                                  |
|-----------|---------------------------------------|---|---------------------------|-----------|--------------------------------------|----------------|----------------------------|--------------------|-------------|----------------------------|-------|-----------------------------|-----|--------------------------------------|
| 年次大会・通常総会 |                                       | 第45回年次大会<br>13日(金)～14日(土)<br>積水化学 京都        |                           |           |                                      |                |                            |                    |             |                            |       |                             |     | 第46回年次大会<br>18～19 or 25～26<br>(中部地区) |
| 研究発表会     | 本部                                    |   |                           |           |                                      |                |                            | 第110回<br>5/28土～29日 |             |                            |       |                             |     |                                      |
|           | 中部                                    |   |                           |           |                                      |                |                            |                    |             | 第111回                      |       |                             |     |                                      |
|           | 関西                                    |   |                           |           |                                      |                |                            |                    |             |                            |       | 第112回                       |     |                                      |
| 講演会       | 第125回本部<br>7日(水)<br>第126回本部<br>15日(木) |   |                           |           |                                      |                |                            | 第127回<br>中部        | 第128回<br>関西 |                            |       |                             |     |                                      |
| シンポジウム    |                                       |   |                           |           |                                      | 第157回<br>本部    |                            |                    |             | 第158回<br>中部<br>第159回<br>関西 |       | 第160回<br>本部                 |     |                                      |
| 事業所見学会    | 本部                                    | 13日(金)<br>(年次大会)<br>・GSユアサ<br>・積水化学<br>・東工場 |                           |           | 第384回<br>日立オート<br>モチティブ<br>19日(金)    |                | 第387回<br>JAXAつくば<br>21日(水) |                    |             | 第389回                      |       |                             |     |                                      |
|           | 中部                                    |   |                           |           | 第385回<br>ヤマハミュージ<br>カルプロダクツ<br>3日(水) |                |                            |                    | 第388回       |                            |       |                             |     |                                      |
|           | 関西                                    | 第383回<br>27日(金)<br>D-egg                    |                           |           |                                      | 第386回          |                            |                    |             |                            |       |                             |     |                                      |
| クオリティトーク  |                                       |   | 第96回<br>2日(水)             |           | 第97回                                 |                | 第98回                       |                    | 第99回        |                            | 第100回 |                             |     |                                      |
| その他の行事    |                                       |   | 第16回<br>安全・安心WS<br>25日(金) |           |                                      |                |                            |                    |             |                            |       | ANO2016<br>ウラジオストク<br>21～23 |     |                                      |
| 会合 / 月    | H27<br>10月                            | 11月   | 12月                       | H28<br>1月 | 2月                                   | 3月             | 4月                         | 5月                 | 6月          | 7月                         | 8月    | 9月                          | 10月 | 11月                                  |
| 理事會       | 422回<br>28日(水)                        | 423回<br>14日(土)                              | 424回<br>16日(水)            |           | 425回<br>12日(金)                       | 426回<br>30日(水) |                            | 427回<br>17日(火)     |             | 428回<br>19日(火)             |       | 429回<br>29日(木)              |     | 430回<br>1日(火)                        |
| 庶務委員会     |                                       |   |                           |           |                                      |                |                            |                    |             |                            |       |                             |     |                                      |
| 会員サービス委員会 | 19日(月)                                |   | 10日(木)                    |           | 5日(金)                                | 17日(木)         |                            |                    |             |                            |       |                             |     |                                      |
| 会計委員会     |                                       |   |                           |           |                                      |                |                            |                    |             |                            |       |                             |     |                                      |
| 規程委員会     |                                       |   |                           |           |                                      |                |                            |                    |             |                            |       |                             |     |                                      |
| 論文誌編集委員会  | 15日(木)                                | 19日(木)                                      | 17日(木)                    | 25日(月)    | 26日(金)                               | 28日(月)         |                            |                    |             |                            |       |                             |     |                                      |

※論文投稿は委員会の開催10日前までをお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

## 第126回 講演会 ルポ

### 『顧客満足(CS)の科学と 品質経営への示唆』

第36～37年度の元会長である圓川隆夫先生（東京工業大学名誉教授）の講演会が10月15日、日本科学技術連盟東高円寺ビルにて開催された。

私たち実務者にとってはいま「顧客満足」ほど、人口に膾炙している言葉は他にない。しかし単なる「顧客不満足解消」だけではなく、顧客満足のために新しい価値をどう考え、どう作り出し、どう提供していくかとなると、実務者として、概念論を乗り越えてその先に進めない悩ましさの壁に当たる。本講演は、膨大な分析と深い文化的洞察から、概念論だけではなく具体論としての道筋について貴重な内容を学ぶことができる機会となった。

講演の論点は以下の3つである

(1)顧客価値の指標といえるCSの生成メカニズムを科学的に解明し、アウトスタンディングからブランドイ

メージが形成されそれがCS生成につながることを明らかにされた。

(2)この結論を元に、顧客価値創造のための「5つの戦略」とその具体化の方法が示され、実務で「CS」「顧客価値創造」に取り組む悩める実務者にとって、具体的に進むべき多くの道を示された。

(3)さらに、私たち日本人の歴史的経験から形成された日本文化を深く洞察し、その強み・弱みを活かしたこれからの品質経営について重要な提起をされた。そして最後に、お客様第一・顧客価値実現を経営の柱とし、「表の品質力」強化と、基礎となる「裏の品質力」を固めて、販売・マーケティングと開発・生産の強固な連携による新デミングサイクルの実行が必要であると結論づけられた。

尚、本講演のベースとなる先生の著書「顧客満足CSの科学と顧客価値創造の戦略」は今年度の日経品質管理文献賞を受賞され、経営者・管理者が今後の方向性、特に顧客価値創造の戦略を考える上で有益な文献であり、さらに学術的にも今後の品質管理の発展に大きく貢献する良書として大変高く評価されている。

熊井 秀俊 (株)リコー

## 事務局からのお知らせ

## 第45年度研究助成募集要項

## 1. 趣 旨

21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

2. 助成金額：1件5万円 4件以内

3. 期 間：1年間（第45年度：平成27年10月から平成28年9月）

## 4. 募集の対象

選考時に申請者が日本品質管理学会の正会員もしくは準会員であり、次のいずれかの条件を満たす者とします。なお、本研究助成を過去2回採択されたことがある場合は対象から除外します。また、(2)の条件を満たす者については選考時に考慮をいたします。

(1)申請時に35歳以下であり、大学、研究所、研究機関、教育機関等において研究活動に従事する者。

(2)申請時に日本の大学院に在籍する外国籍の留学生（年齢制約はありません）。

(3)申請時に35歳以下であり、海外の大学、研究所、研究機関、教育機関等において品質管理についての研究活動に従事する者で日本品質管理学会の主催する諸行事、または品質管理に関連する研究集会に参加しようとする者。ただし、申請は招

聘者が行うこととします。

## 5. 助成対象

品質管理に関連した研究を対象とします。

## 6. その他の申請条件

(1)報告書は所定の様式で提出してください。

(2)研究成果を当学会誌へ投稿、あるいは研究発表会などで発表することを奨励します。

(3)学生が申請をする場合、申請時に指導教官・指導教員の所見を必要とします。

## 7. 申請の方法

所定の「一般社団法人日本品質管理学会 研究助成交付申請書」を用いてください。申請書の様式は学会ホームページ(トップページ→お知らせ→理事会からのお知らせ)を参照し、メールに申請書を添付してください。

8. 募集期間：平成27年12月～平成28年3月末日

## 9. 選考方法

日本品質管理学会研究助成委員会が審査選考を行います。

## 10. 決定通知

平成28年4月末に採択者宛に通知します。

11. 申請書提出先：日本品質管理学会 本部事務局

E-mail: office@jsqc.org

2015年7月の  
入会者紹介

2015年7月23日の理事会において、下記の通り正会員14名の入会が承認されました。

.....  
(正会員14名) ○若林 尚之(富士ゼ

ロックス) ○稻場 満穂(シロウマサイエンス) ○生嶋 健司(三菱重工業) ○佐藤 昌由(東洋紡) ○廣瀬 雅代(統計数理研究所) ○工藤 一三(岩手大崎電気) ○福澤 真史(住友ゴム工業) ○森 公哉(テイケイ気化器) ○岡本利雄(トヨタ紡織) ○藤本 眞男(日本規格協会) ○本所 弘之(川惣電機工業) ○尋木 弘志(ぺんてる) ○渡

辺 聡(防衛省) ○阿部 文昭(シナノケンシ)

.....

正 会 員：2141名

準 会 員：55

職域会員：28名

賛助会員：155社200口

公共会員：18口

## 行 事 案 内

## ●第16回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ

日 時：2015年12月25日(金)13:00～17:30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル 2階講堂

定 員：130名

参加費：2,000円 ※当日払い

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

プログラム：

「運輸分野における事故調査の現状と課題」  
松本 陽氏(運輸安全委員会)

「医療分野における事故調査の現状と課題」

西澤寛俊氏(全日本病院協会)

「原子力分野における事故調査の現状と課題」

五福明夫氏(岡山大学)

パネルディスカッション

申込方法：ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

詳 細： <http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h271225>

## ●第385回事業所見学会(中部)

日 時：2016年2月3日(水)13:00～16:35

見学先：ヤマハミュージカルプロダクツ  
定 員：40名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

申込先：中部支部事務局

詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280203>

## ●第384回事業所見学会(本部)

日 時：2016年2月19日(金)13:30～16:30

見学先：日立オートモティブシステムズ  
厚木事業所(第一地区)

定 員：30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

申込先：本部事務局

詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280219>

## 行 事 申 込 先

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本 部：FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

中部支部：FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

## ANQ Congress 2016 Vladivostok

2016年9月20日(火)～23日(金)にロシアのウラジオストクにて、ANQ Congress 2016が開催されます。

JSQCからの発表希望者はJSQCを通じて発表申込み、アブストラクト等を提出していただきます。

アブストラクト：A4・2ページ、英語及び日本語

発表申込み締切：2016年3月中旬

申 込 先：電子投稿サイトを準備中です。

詳細につきましては、JSQCホームページに掲載いたします。